

茗溪会新潟県支部会報 第74号

物理的なことには小学生・中学生の頃から興味を持っていた。近所の書店でブルーバックスを購入して、わからぬところがありながらよく読んだ。高校の授業では、数式が多くなり、少し興味が薄れたが、それでも一番おもしろく、迷わず物理学系を受験することにした。

高校の授業で学んだ法則は、それぞれが独立していた。例えば電気と磁気の分野では、クーロンの法則、ガウスの法則、ファラデーの法則、ビオ・サバールの法則……など。大学に入つて学んだのは、これらを含んだ全ての電気と磁気の法則。マクスウェル方程式は、J·C·マクスウェルが、たった四つのマクスウェル方程式から導き出すことができるということである。マクスウェル方程式は、J·C·マクスウェルが、過去に知られていたいくつかの電磁気現象を四つの簡単な方程式にまとめ上げて表現したものである。この方程式により、過去に発見されたいくつかの現象と法則を包括的に説明するこ

とができる。同じようなことを量子力学の分野と統計力学の分野でも学んだ。この時のおもしろさと爽快感は今でも忘れられない。

この分野に興味を持つきっかけとなつたのは、輪読会である。一年生から三年生にかけて、当時講師を務められていたI先生が希望する生徒を募り、毎週火曜日の午後七時から二時間ほど「ファインマン物理学(III)電磁気学」の輪読会を開催してくださった。毎回七人ほどの決まった生徒が参加し、先生から指導を受けた。輪読の当番として何回説明したか忘れてしまったが、そのたびにI先生からの鋭い質問を受け、冷や汗をかき、緊張して答えていたことが思い出される。取得単位とは全く関係のない輪読会であつたが、参加するのが楽しみであった。感謝している。その後、I先生は、筑波

今になつて思うこと

新潟東高等学校長 猪又 齊 (S53筑一自
S55筑修理)



茗溪会新潟県支部

第74号

大学の副学長、学長を歴任された。

修士課程では実験物理学を選んだ。

性物理の分野でNQRという現象を使つて、物質の構造を探る研究である。NQRは、NMR(各磁気共鳴)という現象とかなり似ている。NMRは、今、医療で使われている身体の断層写真を撮る装

置・MRIで使われている。実験のボイントは、検出したノイズ混じりの信号の

中から、ハード面、ソフト面の両方を工夫して、ノイズをできるだけ少なくし、必要なデータをいかにして取り出すかで

ある。検出したデータの処理には一つにつき一晩かかる。当時出始めのマイコン・アップルを使った。フーリエ変換を

アップルで行い、周波数成分の強度分布を作った。当時は今のようなハードディスクやメモリーがなかったので、市販の

テープレコーダーを使い、カセットテープに残した。

ここでは、「一番大事なこととそれ以外のこととの見分け方」と「スイッチの入

れ方と切り方には順番がある」ということを学んだ。実験装置はほとんどが手作りで、幾つもの機器がつながっていた。

それぞれに電源スイッチがついている。また、真空ポンプやバルブなどもある。

実験を開始する時には、それぞれの機器のスイッチをオンにしていく順番とバルブを開く順番とが異り、これを間違えると機器が壊れて大変になる場合がある。実験を終了するときも同様である。

修士課程修了後、企業、茨城県の私立

の学校でも課題があつた。課題の解決に際しては、大学で学んだマクスウェル方

程式のようないくつかの「教育の方程式」はなく、その都度ケースバイケースで対応してきた。振り返ると、多くの学校に勤務し、いろいろな出来事に遭遇した。最

近は、問題がこじれた場合やこじれそうに思える場合の原因が、総じて似ている

と感じている。それは、生徒、保護者、教師三者間の意思の疎通が不十分である

ということである。保護者が学校に不信感を持ち、事態が悪い方へ動いていく。

教師の話が生徒に正確に伝わっていないために食い違いが起きる。さらに、この

くらいは常識的にわかっているだろうと思われるが、実際にはわかつていなかつたということもたまにはある。だから、最近は、本当に注意深くなってしまつてはいる。とにかく、何かあつた時には、相手の話を良く聞き、必要に応じてできるだけ丁寧に説明し、また、事を進めるときには一番大事なことは何かをよく考えて効果的な順番で進める、ということを心がけている。

今、立ち止まって考えてみれば、大学時代に学んだ物理の方程式は、授業には十分役立つたが、当然ながら教育現場の課題解決には直接的に役立たなかつた。

しかし、一つずつ学んでいく楽しさ、多くの事象の中から一番大切なこととそれ

以外のことを見分けること、事を進めるにあたっては手順が大切であるということ

など、大学で学んだこと、経験したことが教育現場での基盤になつていていたと感じている。

平成二十六年度支部総会報告

本年度の県支部総会は七月六日(日)に新潟市のサンルート新潟で全員三十五人の参加のもと開催された。

総会が行われる前に行われていた理事会に加えて幹事会が新たに開催され、平成二十六年度の活動内容の確認と役割分担に関わる打ち合わせがあつた。

総会は、議事に先立ち、永井支部長の挨拶があり、今回残念ながら他県の総会が重なり来県がかなわなかつた本部監事古藤昭子様よりのお手紙が読まれた。お手紙の内容で東京茗荷谷の茗渓会館が閉鎖になるという報告を受け、今後の会の維持のために何をしなければならないか深く考えさせられることになった。

議事では、平成二十五年度会務報告、会計報告及び二十六年度の支部役員体制と事業計画が審議された。そして新たに茗渓会新潟支部の組織改革に向けての取り組みが提案された。筑波大学卒業生の就職者の中で教員はわずか8%に対して民間は64%であり、本県支部会員113名中、高校教員は81名である。今まで支部活動は高校教員中心の活動であつたが、卒業生の一割も満たない数しか教職に就かず、さらに減り続けていく現状を考えると時代にあつた組織に変えていく必要性があり、そのため総会は各方面に声をかけ、オープンに参加できるような雰囲気作りを行つていきたいという提案があり、次年度の役員改選に向けて組織改革検討委員会が設置されることになった。

会員発表では、最初に北越銀行の池田尚様より、新潟県の貯蓄状況と人口減少

の相関、事業所統計、受託統計、社会統計といった視野から見た新潟県の現状が報告された。

新潟テレビ21の石川洋一様からはテレビ局に就職されてから今日に至るまでの経緯を興味深い内容でお話され、近年では拉致問題に関する報道や報道のやり方の評価など、テレビ局ならではの難しさを感じた。

最後に見附市立病院で看護師をされている山本久代様から筑波大学附属病院での勤務の様子、見附市立病院に移つてからお仕事の内容が変わり苦労されたお話をあつた。また、大腸カメラによるガン早期発見に関するお話では検査の重要性を改めて確認した。

今回教員の発表はなく、民間の方3名が斬新で興味深い発表をされ、得ることの多い一日となつた。

懇談会では牧野前支部長、高山理事の挨拶や、桐の葉の宣掲歌の大合唱で大いに意気あがり、盛大であつた。

五十嵐俊樹 佐藤俊
南雲百合恵 上村栄市
高山俊彦 池嶋聖也
岩崎啓 熊倉肇
鹿俣譲 笛木勉
廣井徳文 今井幸弘
羽賀巳生

五十嵐俊樹 佐藤俊
南雲百合恵 上村栄市
高口和法 若山宏
山田淳一 遠間春彦
渡辺晃 宮本俊彦
山田武 菅耕二郎
有坂久美 西巻裕樹

五十嵐俊樹 佐藤俊
南雲百合恵 上村栄市
高口和法 若山宏
山田淳一 遠間春彦
渡辺晃 宮本俊彦
山田武 菅耕二郎
有坂久美 西巻裕樹

研修担当 理事 関事 猪又齊 斎藤均
幹事 高口和法 若山宏
山田淳一 遠間春彦
渡辺晃 宮本俊彦
山田武 菅耕二郎
有坂久美 西巻裕樹

本部代議員 幹事 理事
幹事 猪又齊 斎藤均
高口和法 若山宏
山田淳一 遠間春彦
渡辺晃 宮本俊彦
山田武 菅耕二郎
有坂久美 西巻裕樹

平成25年度 事業報告

期日	項目	会場	摘要
1 5月19日(日)	常任理事会(年間準備会議)	新潟第一ホテル	
2 5月30日(木)	本部定期総会		永井支部長 小野寺副支部長
3 7月6日(日)	支部理事会・総会	サンルート新潟	
4 8月中旬	支部会員名簿作成会議		
5 9月上旬	支部会員名簿発行		
6 9月9日(月)	常任理事会(支部研修会準備会)	旬月	
7 10月12日(土)	常任理事会(教員志望者研修会準備会)	サンルート新潟	
8 10月12日(土)	支部研修会	サンルート新潟	
9 11月上旬(水)	教員志望者研修会	筑波大学	高口理事 若山理事
10 1月25日(土)	長岡・魚沼地区研修会	魚藤	
11 2月8日(土)	教員志望者研修会 若手教員懇談会	サンルート新潟	

支部会報71号発行((会員名簿に同封)

支部会報72号発行(2月中旬)



2014/07/06

平成26年度 事業計画

期日	項目	会場	摘要
1 5月18日(日)	常任理事会 (年間準備会議)	新潟第一ホテル	
2 5月22日(木)	本部定期総会	茗渓会館	
3 7月6日(土)	支部理事会・幹事会・総会	サンルート新潟	
4 8月中旬	支部会員名簿作成会議	未定	
5 9月上旬	支部会員名簿発行 支部会報73号発行 (支部会員名簿と同封)		
6 9月上旬	常任理事会 (支部研修会準備会)	未定	
7 10月4日(土)	常任理事会 (教員志望者研修会準備会)	サンルート新潟	
8 10月4日(土)	支部研修会	サンルート新潟	
9 1月下旬	長岡・魚沼地区研修会	未定	
10 2月14日(土)	教員志望者研修会 若手教育懇談会	サンルート新潟	
11 2月下旬	支部会報74号発行		

平成25年度 一般会計決算報告

(単位:円)

項目	金額	摘要
繰越金	86,267	前年度から繰越
本部会費	294,000	@3,500円×84人
支部会費	405,000	@3,000円×135人
雑収入	50,677	本部から20,000円、利子(177円)、寄付など
合計	835,944	

2. 支出の部

(単位:円)

項目	金額	摘要
本部会費	264,600	@3,150×84人
講師謝金	0	
旅費	49,100	筑波大説明会旅費、タクシー代
事務費	38,781	封筒・タックシール等
印刷費	87,900	名簿、会報等
通信費	127,160	総会・研修会案内、名簿・会報等の送料
会議費	114,420	総会、研修会の会議費
補助金	20,000	長岡・魚沼地区研修会補助
雑費	60,295	振込手数料、香典等
合計	762,256	

3. 差引残高 835,944 - 762,256 = 73,688円

監査の結果、会計処理は適正であり、誤りのないことを認めます。
平成26年5月10日

監査委員 外河山内一 隆男 (印)
監査委員 (印)

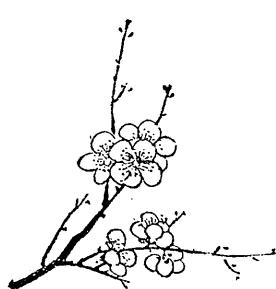
卒業時、大学の校内誌に「これからは地方の時代」と記し、地方銀行員という道を選びました。あれから約三十年、予刻は外れ、近年頓に東京一極集中が加速しています。高速交通網の整備は、地方を豊かにするどころか、元気な若者を流出させる、言わゆる「ストロー」(強力な方へと吸い取られる)現象を引き起こしています。

【米百俵】にもあるように、「国が栄えるのも滅ぶのも悉く人にあります。」それ故、人口現象は地方にとって死活問題です。今後、教育界において生徒数の減少や学校の統廃合が大きな課題であるように、金融界でも預金減少や地域金融機関の再編は大きな課題です。

私たちが住む新潟県は、東京都の約六倍の面積を有していますが、最近の統計で東京都とザックリ比較すると、人口は六分の一、預金は三十分の一、貸出金は四十分の一となっています。今いま、ストロー現象が続けば、両者の差額は更に拡大するでしょう。そうなれば、新潟県経済はますます活力を失い、活気が失くなれば若者が流出し、人口は一層減少します。一刻も早く、私たちはこの悪循環を断ち切らなくてはなりません。さて、先日の茗渓会新潟県支部総会で、今年度以降は教員以外の方々を巻き込んで組織改革することが決まりました。業

他県支部とも情報交換しながら、茗渓会を総合大学の同窓会としてグレードアップしていただきたいと思います。
私も、地方銀行員として生き、気が付けば五十二歳になりました。出世したわけでもなく、大きな成長もないまま、職業人としての先も見えてきました。こんですが、好きな言葉は、フランスの哲学者アランの「悲観主義は気分だが、楽観主義は意志である。」という言葉です。過去は後悔せず謙虚に反省し、今日という日は残りの人生において常に初日なのだと「意志」を持って、楽観的に生きていこうと日々自分に言い聞かせています。

最近、人類の未来に何故かぼんやりとした不安を感じことがあります。偉業を残すことはできませんが、残された人生で何を遺し、次世代にどう繋げていくかを真剣に考え始める今日この頃です。



北越銀行 池田 尚 (たかし)
(60社工)

(60
社工)

地方銀行員として生き、思うこと

20年目のテレビの仕事

新潟テレビ 21 石川 洋一 (H7筑一社会)

看護師としての歩み

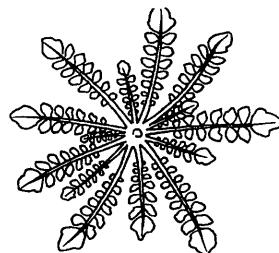
見附市立病院 山本 久代 (H8医技短看)

筑波大学を卒業してから20年目の節目をむかえている今年。縁があつて大先輩や後輩の皆さまと会う機会に恵まれました。7月6日に開かれた茗渓会新潟県支部の会合でお話を紹介させて頂きます。

「捨学」とされていた社会学類。その字の通り、私の学生時代はアルバイトとお酒が中心で、大好きな野球のサークルと同じ学類の仲間たちとの活動など、勉強した思い出はほとんどありません。ただ、その経験は今となつては貴重で様々な場面で生かせています。

就職難が始まった頃の平成7年、地元新潟のテレビ局に入社しました。民放局は4局ありますが、高校野球の取材に携わりたかった私にとっては希望していたテレビ局で、1年目からアシスタントディレクター（いわゆるAD）として高校野球中継の番組に関わります。その後、夏はほぼ毎年、高校野球の仕事を担当。入社5年目と14年目の2回、憧れていた「熱闘甲子園」のディレクターとして派遣された仕事をしました。高校時代に選手として夢だった甲子園。その夢がかなつたような気持ちでした。

現在は報道デスクという立場で、新潟県内の様々なニュースを取材する記者やアナウンサー、カメラマンたちと一緒に働いています。今はまとめ役ですが、現場に行く仲間たちの声を大切にしようと



心がけています。近年、新潟では大きな災害が続きました。被災地の現状を伝える使命があるわけですが、テレビ番組は時間が限られているため、取材した事や撮影した映像を編集しなければなりません。つまり、被災者の思いの裏側などを全て紹介することはできない…。切り取って伝えた内容で本当にいいのか?と自問自答を繰り返しながら作業をしています。仲間を信じて、取り扱う物事の核心にどこまで迫ることができるか。これが今の私に課せられた20年目のテレビの仕事です。

これを書いているのは平成26年8月上旬。1カ月後には拉致問題が大きく進展しているかもしれません。ドキドキする日々を過ごしていますが、これがテレビの仕事の魅力なんだと思います。

自分が近づいてくると仕事も忙しくなり、ナースコールも頻回になります。日中勤務のスタッフが病棟に来る頃になると、ホッとした気持ちになつたものでした。そんな筑波での生活を経て、いつかは地元に戻つて働きたいという思いのあつた私は、また懐かしい故郷の地に戻つてまいりました。

現在勤務している見附市立病院は、大学病院とは全く規模の違う、入院病床百床弱の小さな病院で、おとどし開院二十周年を迎えました。「信頼され、愛され、地域とともに歩む病院をめざす」ということを理念に掲げており、地域の皆様、特にご高齢の方が多く通われています。

私の配属は、約五十床の外科と内科の混合病棟に決まりました。今までのよう

に研修医の先生がいるわけでもなく、看護師が中心となつて行う処置もたくさんを受け、将来は看護の職に就きたいと思ふようになりました。本当に新卒の気持ちでいろいろ教わる毎日でした。主に外科チーム担当だつたため、「初めての入院、初めての手術」という患者様にも多くお会いしました。手術後の辛い時期を一緒に乗り越え、無事退院となつた時、患者様から「ありがとうございました。中でも「夜勤」は慣れるまでが大変でした。日中勤務して仮眠をとつた後、日付けの変わる零時前には病院に向かいます。勤務前の準備、患者様についての申し送りと続き、病室のラウンド後は、看護記録の記入です。患者様の起床時間が近づいてくると仕事も忙しくなり、ナースコールも頻回になります。日中勤務のスタッフが病棟に来る頃になると、ホ

ーッとした気持ちになつたものでした。その後、結婚、出産を経て、育児休暇から復帰する際、「外来」への配属となり、現在に至っています。今は主に、外科外来と内視鏡を担当しています。病棟勤務が長かつたため、外来看護については、日々模索中といつたところです。今は、仕事と子育てとで、てんてこまいの毎日ですが、好きだからこそ長年続けてきたこの看護の仕事。これからも、自分なりに、精一杯頑張つていきたいと思っています。

原稿をお寄せいただいた皆様、ご協力ありがとうございました。

今回は支部会総会の報告を拡大して掲載したために「職場の仲間たち」はお休みすることになりました。次号には掲載します。

編集後記